

医療の未来をつくる全国からの声

# 診療所探訪



## 往診でカテーテル交換を行う、 泌尿器科専門のクリニック

2012年9月取材

新潟県新潟市  
ないとう泌尿器科クリニック 院長

### 内藤 雅晃 先生

泌尿器科医を選んだ理由の一つが、「他科に比べて、最初から最後まで患者さんを診ることができるため」だったという内藤雅晃先生。ないとう泌尿器科クリニックを2009年に開業して数多くの外来患者さんを診療するだけでなく、尿路カテーテルの交換を必要とする在宅の患者さんへの往診も頻繁に行っています。

### 泌尿器科に特化した診療所

内藤先生が開業時にこだわったのは、泌尿器科に特化した診療所づくりでした。「泌尿器科は患者さんの数が少ないと言われ、単科での開業は難しいとされています。しかし、総合病院に勤務していた経験から、泌尿器科の潜在的な患者さんは多いと考えていました」。先生の推測通り、子どもからお年寄りまでたくさんの方が同クリニックを訪れています。「尿のトラブルをはじめ、性病、夜尿症などの、総合病院には行きづらかったという患者さんが数多く来院されます。泌尿器科だけに特化したことで敷居が下がり、こうした症状の患者さんが勇気を持って来てくださっていることを実感しますね」。



バリアフリーのトイレは、尿をかけると尿の勢いなどを検査できる機能が付いています。排尿の際に検査もできるということで、手間がかからず患者さんに好評です。

### 話をよく聞き、心のケアにもつながる診療を



「待合室にある畳の小上がりは、畳店を営む父がつくってくれました」と内藤先生。お年寄り同士が雑談したり、子どもが遊んだりといった憩いの場になっています。

排尿障害や性病、腎臓結石などさまざまな症状の患者さんに対して、内藤先生が常に心掛けているのは「患者さんの話をよく聞くこと」です。「何年も悩んだ末に来院され、症状の経過だけを長時間話す方も多いです。私はどんなに長くても話を遮らずに全て聞き終えます。話ただけで安心する患者さんもいらっしゃいますから、それだけ悩みが深いということでしょう」。話をよく聞くことで、症状の原因を特定することもできると言います。「例えば、『夜中に4回トイレに行く』と、頻尿を訴えて来院された高齢の患者さんは、細かく聞いてみると夜8時に寝て朝は7時に起きると言います。11時間も寝ていれば、4回トイレに行っても頻尿ではないと分かってきます。そういう方には、やんわりと『夜は長いですからね』と言ったりしますが、決して頻尿を否定はしません」。内藤先生のこうした思いやりのある診察が、患者さんの安心にもつながっています。

### 往診でのカテーテル交換も

外来診療以外に内藤先生が注力しているのは往診での尿路カテーテルの交換です。「さまざまな病気で寝たきりになった患者さんは、カテーテルを定期的に交換する必要があります。在宅医療では内科医や訪問看護師が行いますが、出血したりして交換しづらいような場合は泌尿器科医が行うのがベストです。そこで、昼休みを利用して往診でカテーテル交換をしています」。1カ月に100名以上を担当している内藤先生は、平日だけでなく、休診である土曜日の午後や日曜日にも連絡があれば駆け付けます。「休診日に私に連絡がつかず、他の病院で交換することになるより、休めなくても私が担当したいと思っています」。休みも返上で診療にあたる内藤先生の中にあるのは、「自分の患者さんは、治療が終わるまで受け持ちたい」という強い気持ちなのです。



エコーや内視鏡検査は同クリニックで行い、必要があればCT、MRI検査を総合病院に依頼することもあるそうです。